様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年　４月２８日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2010
課題番号：19320124
研究課題名（和文）北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究

研究課題名（英文）Archaeological Studies of the Formation of Middle Ainu Culture: From Perspective of the History of Northeast Asia

研究代表者
熊木俊朗（KUMAKI TOSHIAKI）
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：20282543

研究代表者の専門分野：考古学
科研費の分科・細目：史学・考古学
キーワード：中世アイヌ文化、オホーツク文化、擦文文化、北東アジア史

１．研究計画の概要

日本列島の北方史における転換点が古代から中世への移行期にあることが、考古学・文献史学の両面から指摘されてきている。それは北日本のみならず、東アジア世界全体で生起した広域的変動として理解すべきものであり、特に、北方社会の発展を契機として大陸と日本列島の「北回り」の交流が確立してゆく過程が注目されている。しかしながら、具体的・実証的な研究は未だ道半ばである。

本研究では、オホーツク文化と擦文文化に代表される古代の北海道の先史文化から、いかなる過程を経て中世アイヌ文化が形成されるのかという問題を研究の軸に、古代から中世への移行期における日本列島の北方地域の社会変動を考古学的に解明することを目的とする。

２．研究の進捗状況

（１）オホーツク文化に係る未報告資料の調査

東京大学総合研究博物館に所蔵されている、鳥居龍蔵によって採集された千島列島出土考古資料について資料調査を実施した。調査では、未報告資料を含む全ての資料に対して図化・計測等によるデータ化をおこなった上で、考古学的観点からの分析と評価を試み、成果は『千島列島先史文化の考古学的研究』として刊行した。また、函館市北方民族資料館、網走市立郷土博物館、東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室等に収蔵されている網走市最寄貝塚出土の未報告資料についても図化等の作業を実施し、現在、データを整理中である。

（２）オホーツク文化の遺跡から出土した各種資料の分析

北見市トコロチャシ跡遺跡において採取された植物遺存体、動物遺存体、鉄製品などの試料について整理作業をおこない、分析のための基礎データを整備した。試料は北海道大学埋蔵文化財調査室、北海道開拓記念館、慶応大学、愛媛大学などの研究協力者に分析を依頼済みで、分析結果は来年度に報告の予定である。

（３）北海道北見市における遺跡発掘調査・地形測量調査

北見市教育委員会と協力し、北見市トコロチャシ跡遺跡にて発掘調査を実施するとともに、北見市大島２遺跡にて地形測量調査をおこなった。前者の遺跡は近世アイヌ期の代表的な遺跡であるが、ここではチャシの壕の未調査部分にメスを入れて壕全体の形状等を明らかにし、壕の形態や機能に関する基本的なデータを整備した。後者の遺跡は擦文文化の竪穴住居が凹みで残る集落遺跡であるが、ここでは平成 22 年度におこなう予定の発掘調査に先立ち、凹みの形状を詳細に測量して遺跡立地や遺構の配置に関するデータを整備した。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に推移している

（理由）

オホーツク文化に係る資料調査は計画通り進行し、主要な成果についてはすでに報告書を刊行している。擦文文化とアイヌ文化に係る遺跡発掘調査も計画通り実施し、資料整理も順調で最終年度の報告書刊行に向けて準備が進んでいる。

４．今後の研究の推進方策

（１）北海道北見市における遺跡発掘調査

擦文文化の終末期に関するデータを得るため、平成 21 年度に地形測量調査を実施した北見市大島 2 遺跡において、擦文文化の竪穴住居跡 1 軒の発掘調査を実施する。調査は 8 月～9 月にかけての約 3 週間を予定している。

（２）出土考古資料の整理と分析

平成 19～21 年度にかけて発掘調査を実施したトコロチャシ跡遺跡の出土資料を対象とした整理作業と自然科学的分析を実施し、成果を下記（３）の報告書にて公開する。

（３）成果の総括と報告書の刊行

東京大学大学院人文社会系研究科常呂実習施設にて関係者による検討会議を開催し、これまでの成果を総括する。その会議での総括を踏まえ、北海道北見市にて実施してきた発掘調査の成果を中心とする研究成果報告書を刊行する。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

<u>熊木俊朗</u>「続縄文文化」斜里町知床博物館編『知床の考古』北海道斜里町・斜里町教育委員会、140-148 頁、2008 年 3 月、査読無。

<u>熊木俊朗</u>「続縄文期における北方文化の構図」明治大学文学部考古学研究室編『地域と文化の考古学Ⅱ』六一書房、39-54 頁、2008 年 10 月、査読無。

<u>熊木俊朗</u>「オホーツク土器の編年と各遺構の時期について」米村　衛編『史跡　最寄貝塚』網走市教育委員会、303-319 頁、2009 年 3 月、査読無。

<u>熊木俊朗</u>「オホーツク土器の編年と地域間交渉に関する一考察」菊池徹夫編『比較考古学の新地平』同成社、709-718 頁、2010 年 2 月、査読無。

<u>熊木俊朗</u>「特集『続縄文文化の特色』　総論－最近の研究動向から－」『北海道考古学』第 46 輯、1-8 頁、2010 年 3 月、査読無。

〔学会発表〕（計 1 件）

<u>熊木俊朗</u>・山田　哲「北海道北見市トコロチャシ跡遺跡・大島２遺跡　調査報告（2008 年度・2009 年度）」、第 11 回北アジア調査研究報告会、2010 年 3 月 13 日、石川県立歴史博物館

〔図書〕（計 1 件）

<u>熊木俊朗</u>・<u>高橋　健</u>編『千島列島先史文化の考古学的研究』東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設（北海道出版企画センター）、106 頁、2010 年 3 月。